

## 令和2年度 校内授業研修会 全体会

【期 日】 令和2年12月10日（木）

【場 所】 大会議室

【司会者】 金子 淳 教頭

【記録者】 佐々木 周子

### 1. 校長挨拶

本日はお忙しい中、秋田県教育庁保健体育課学校教育・部活動班からは野中仁史主任指導主事、秋田県教育庁高校教育課指導班からは伊藤匡指導主事、秋田県総合教育センター研修班からは伊藤康夫指導主事の三名においていただきまして、本校の授業研修会を実施させていただきました。各分科会におきましては、提案授業の参観、ならびに指導助言等をたまわりました。後ほど、講評をいただきますので、よろしくお願いたします。

### 2. 各分科会より協議内容の報告

#### (1) 生物分科会（発表者：宮原）

ジグソー法を使った授業で、生徒が自分で調べた内容を発表し、共有するという授業であり、生徒の役割が非常にはっきりとしていたので、楽しみながら積極的に参加していたため、生徒の学習意欲という点では非常に効果的だったのではないかという意見があった。

だからこそ、もう一工夫有れば、知識が深まるのではないかという意見もあった。例えば、時間配分の問題である。最後、まとめをできなかったのだが、全体での知識の共有時間が一番大事なのではないかという指摘があった。

伊藤指導主事からも、今後はICT利用でより深められるだろうという意見をいただいた。

#### (2) 保健体育科（発表者：大須賀）

交通安全についての授業であった。パワーポイント等を利用した視覚に訴える授業であった。生徒はスライドを見ながら、特に指示が無くとも板書をとっており、非常に活発な授業がなされていた。

グループ活動をメインとした授業だったが、そこでも活発な意見交換が行われていて、グループの中から選抜して一つの意見を発表するという展開も、深い学びにつながるのではないかという意見があった。

図の読み取りから入ったのだが、他の図の読み取りや発問の工夫がもう少しできることがあったのではないか、また、発表する生徒の声が小さいため、復唱する、もしくはもう一度言ってもらいなどの指示があってもよいとの指摘もあった。

野中指導主事より、この単元は、教科書としては後半に配置されているが、1年生の4～5月段階で実施している学校が多いため、年間指導計画を考えてみてはどうかという意見をいただいた。

#### (3) 情報科（発表者：浅沼）

オートライトのプログラムを作成する授業であった。授業者からは、次期の学習指導要領の情報Iでプログラミングが必須になっているため、それを見越して研究授業に取り入れてみたとのこと

であった。生徒らは一生懸命、既習事項を生かしながら取り組んでいた。

各班の協議からは、指示が明確で、生徒に指示を与えすぎず、考えさせるという点を重視しており、それが、教え合う場面を多く生むことにつながり、ひいては主体的な学びにつながったのではないかという意見が挙げられていた。

また、課題としては、発問やプリントに関すること、そして、既習事項の確認、導入部の動機付けなどに関して指摘がなされていた。

また、伊藤指導主事より、プログラミングの授業では、このプログラムが何につながるのかということが生徒に伝わるのが大事であるというご指摘をいただいた。また、パソコン操作についてはコミュニケーション能力も関わってくるため、教え合いの活動が多くてよかったというお話もいただいた。

今回は、協議会も Jamboard を利用しており、来年度以降の研修会に対しても提案性のある研究授業だった。

### 3. 各指導主事より講評

#### (1) 秋田県教育庁高校教育課指導班 指導主事 伊藤 匡 先生

まず、理科、SSHを担当しているため、SSHに関して、簡単に話したい。課題を発見・探究・発信できる生徒の育成が研究課題となっている。その内容が日々の指導はもちろん、カリキュラムの開発の面でも、これまでの取り組みが全国的にも注目されているものになっている。具体的には、高大接続の事業と、中央型探究授業に基づく授業改善の取り組みである。本日の授業研究会もSSHの授業改善の一環であろうと思う。こういった取り組みを今後も継続してほしい。

授業については、理科の生物の授業を参観した。先ほどの課題を発見・探究・発信のうち、探究につながる内容であった。生徒たちにジグソー法の仕方も伝わっており、生き生きした授業であった。他にも、工夫した取り組みが見られた。例えば、ジグソー法の活用での課題解決という手法は挑戦であった。発表が三段階あり、発表を通して知識を広めて、表現力を高め、最終的には課題解決へというのが授業のねらいであったかと思う。ジグソー法は課題解決に結びつきにくいものではあるが、挑戦した授業であったと思う。細かく見れば、クイズの設定や、ICTの活用による写真提示、丁寧な説明など、全ての生徒に理解させたいという意図が感じられた授業であった。今後、来年度から一人一台端末が配布されるため、学校の学びが変わっていく。SSHとICTの活用を更に工夫し、手法を発信してほしい。端末が入ることで学びが大きく変わる。例えば、今日の授業であれば、発表活動をネット上の通信を使って意見交換ができる。課題の提出評価も一瞬でできる。課題の提示も事前に提示できる。今日の授業も将来的な活用の提案になっていたと感じている。

#### (2) 秋田県教育庁保健体育課学校教育・部活動班 主任指導主事 野中 仁史 先生

保健の研究協議会について話をする。授業者をはじめ、参観された先生方、他校の先生など、一緒になって熱心な協議が行われていた。他教科の先生や他校の先生の意見はするどいものがあり、そこにいた全員の授業改善の参考になるのではないかと感じた。

授業内で大きなポイントだと感じたのが、交通安全で間違った意識や行動を資料から見つけて、適切な行動や意識に変えていくという点である。規範意識が高まって、生徒の行動変容につなげようという意図が見えた。今日授業を受けた生徒は横断歩道を渡る際、違った意識で渡ってくれるのではないだろうか。保健は生活に生かさないといけない科目であるため、実践力をつけるというこ

とを毎時間意識して授業してほしい。

身近な話題、身近な課題を取り上げるという意味では、秋田県警の自転車指導警告で切符をもらった事例が22件あった。これは、平均的だそうだが、並列や無灯火などである。また、今年度、高校教育課に8件交通事故報告もあった。他教科を含め、学校全体で指導して欲しい。最後に、部活動指導が変わってきている。信念は変わっていないが手法は変わらざるを得ない。授業も同様であろう。今日いただいた助言を取り入れながら、思いきったチャレンジをしてほしい

### (3) 秋田県総合教育センター研修班 指導主事 伊藤 康夫 先生

長久保先生は今年度ICT推進委員として教員研修を受講していたため、授業を楽しみにしていた。また、googleのJamboardを利用した研修会ということでも楽しみにしてきた。

新しい学習指導要領では、プログラミングが小学校で必修化、中学校でも内容倍増。そして、高校でも情報Iの中で「社会と情報」にはないプログラミング教育が入ってくる。今日は、micro:bitを用いて、温度や方角、光などのセンサーを意識させて授業していた。人工知能や自動運転などを生徒に意識させれば、更に学びにつながると感じた。また、40台ある教室に26名であったので、空いているPCに画像転送すれば、スクリーンが見えない生徒にも指示が見えたであろう。生徒が教えあい、協力して授業を進めており、普段の授業の様子が想像できるものであった。協議会でも先生方の教え合いが見られ、生徒も職員もアクティブラーニングを実施している印象を持った。パソコンの操作に関しては、人によって温度差があるため、分からないときは人に聞くことが求められる。そのためにも、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力育成につなげてほしい。今回はビジュアル型のプログラミングであったが、テキスト型のプログラミング授業実践も今後必要になるため、そういった授業事例を研究し、発表して欲しい。

一人一台端末が開始されることを念頭に置き、教科を問わずICT利用して欲しい。

## 4. 校長挨拶

忙しい中、授業していただいた。また、研究協議会でも熱心な協議がなされていた。参加した全員が、自分のことのように感じて、協議会内容を参考にして授業改善してほしい。教科の枠にとらわれず、異なる教科の授業を積極的に参観し、自分の力にして欲しい。